

安房郡市広域市町村圏事務組合の財務報告書

統一的な基準による財務書類

令和3年度決算

安房郡市広域市町村圏事務組合の財務報告書
統一的な財務書類
目次

第1章 地方公会計制度の策定経緯と意義	P1
1 経緯	P2
2 意義	P2
3 現金主義と発生主義	P3
4 単式簿記と複式簿記	P3
第2章 会計範囲及び財務書類の内容	P4
1 対象会計範囲	P5
2 組合の人口	P5
3 財務書類の体系及び内容	P6
(1) 貸借対照表	P6
(2) 行政コスト計算書	P8
(3) 純資産変動計算書	P10
(4) 資金収支計算書	P12
4 財務書類の相互関係	P15
第3章 財務書類の経年比較	P17
1 貸借対照表の経年比較	P18
2 行政コスト計算書の経年比較	P22
3 純資産変動計算書の経年比較	P26
4 資金収支計算書の経年比較	P28
5 指標一覧	P31
第4章 各種資料	P33
1 統一的な基準の財務書類	P34
2 資産更新額の推計	P42
3 用語解説	P43

第1章 地方公会計制度の 策定経緯と意義

1 経緯

平成18年6月に成立した「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」を契機に、総務省から地方公会計制度の指針が示され、「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の財務書類の作成が求められました。

こうした要請に基づき全国で地方公会計の整備（財務書類の整備）が進められましたが、当初、「基準モデル」・「東京都方式」等、複数の会計基準が存在し、団体間での比較が難しいなどの課題がありました。

このような課題に対応するため、平成26年度に総務省から「統一的な基準」が示され、全ての地方公共団体は平成29年度末までにこの基準に準拠した財務書類の作成が必要となりました。

2 意義

当組合を含む、地方公共団体における予算・決算に係る会計制度（官庁会計）は、予算の適正・確実な執行を図るという観点から、単式簿記による現金主義会計を採用しています。

一方で、財政の透明性を高め、説明責任をより適切に果たす観点から、単式簿記による現金主義会計では把握できない情報（ストック情報（資産・負債）や見えにくいコスト情報（減価償却費等）を住民や議会等に説明する必要性が一層高まっており、そのためには、単式簿記による現金主義会計の補完として複式簿記による発生主義会計の導入が重要となります。

また、複式簿記による発生主義会計を導入することで、上記のとおりストック情報と現金支出を伴わないコストも含めたフルコストでのフロー情報の把握が可能となるので、公共施設等の将来更新必要額の推計や、事業別・施設別のセグメント分析など、公共施設等のマネジメントへの活用充実につなげることも可能となります。

3 現金主義と発生主義

会計取引の認識の考え方には、「現金主義会計」と「発生主義会計」があります。民間企業では「発生主義会計」を採用しており、現金支出を伴わないコスト（減価償却費、退職手当引当金等）を把握することができます。

総務省資料引用

現金主義と発生主義

現金主義 現金の収支に着目した会計処理原則（官庁会計）

- 現金の収支という客観的な情報に基づくため、公金の適正な出納管理に資する
- × 現金支出を伴わないコスト（減価償却費、退職手当引当金等）の把握ができない

発生主義 経済事象の発生に着目した会計処理原則（企業会計）

- 現金支出を伴わないコスト（減価償却費、退職手当引当金等）の把握ができる
- × 主観的な見積もりが含まれるため、必ずしも客観性が担保されない

→ 「現金主義」に加えて「発生主義」を採り入れることで、減価償却費、退職手当引当金等のコスト情報が「見える化」

4 単式簿記と複式簿記

複式簿記とは経済取引の記帳を二面的に行う簿記の手法で、伝票単位で複式簿記を行うことで資産等のストック情報が見える化されます。

総務省資料引用

単式簿記と複式簿記

単式簿記 経済取引の記帳を現金の収入・支出として一面的に行う簿記の手法（官庁会計）

複式簿記 経済取引の記帳を借方と貸方に分けて二面的に行う簿記の手法（企業会計）

（例）現金100万円で車を1台購入した場合

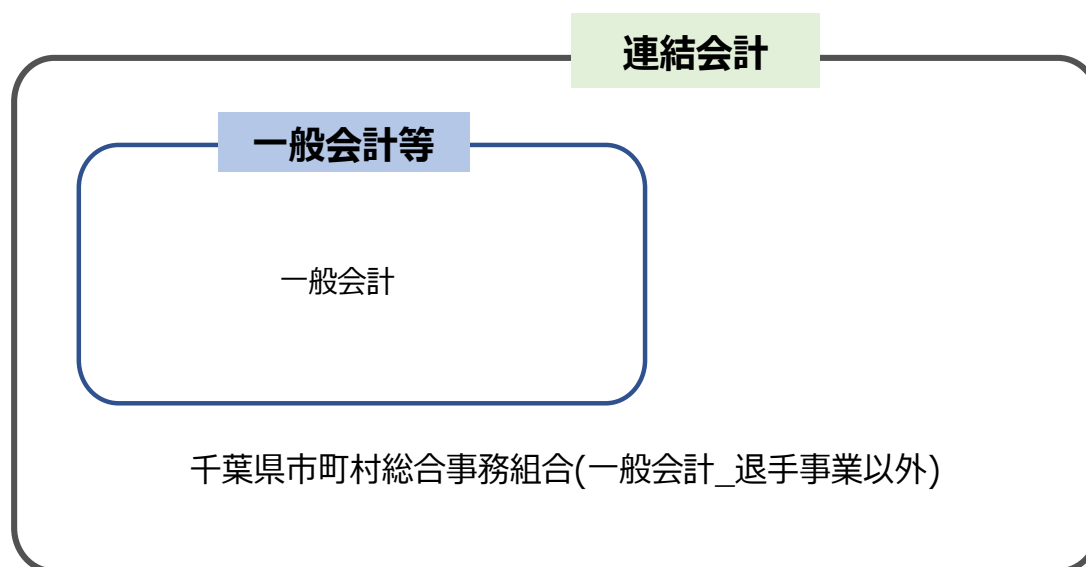
- <単式簿記> 現金支出100万円を記帳するのみ
- <複式簿記> 現金支出とともに資産増を記帳
（借方）車両100万円 （貸方）現金100万円

→ 「単式簿記」に加えて「複式簿記」を採り入れることで、資産等のストック情報が「見える化」

第2章 会計範囲及び財務書類の内容

1 対象会計範囲

財務書類は、一般会計からなる「一般会計等」、千葉県市町村総合事務組合を含めた「連結会計」の2種類があります。



2 組合の人口

区分	安房郡市広域市町村圏事務組合		内訳			
	世帯数	人口	館山市	鴨川市	南房総市	鋸南町
令和3年度末	52,317世帯	116,786人	44,195人	31,312人	34,636人	6,643人
令和2年度末	52,480世帯	118,798人	44,705人	31,835人	35,387人	6,871人

3 財務書類の体系及び内容

(1) 貸借対照表

◆ 貸借対照表（BS）とは…

基準日時点における財政状態（資産・負債・純資産の残高及び内訳）を表示したものです。



◇ 資産は、財源等の運用状況を表しています。

道路・公園・公営住宅などの固定資産や現金預金、基金、貸付金等が該当します。

◇ 負債及び純資産は、どのように財源を調達したのか、誰が負担したもののなのかを表しています。

負債 ⇒ 地方債で調達し、将来世代が負担するもの

純資産 ⇒ 税収等で調達し、過去及び現役世代が負担したもの

<例> 公民館を1.5億円で取得した場合

資産	財源		
取得価格	純資産		負債
	税収	補助金	地方債
1.5億円	5,000万円	3,000万円	7,000万円



資産 固定資産 建物 1.5億	負債 地方債 7,000万	} 返済必要 } 返済不要
	純資産 税収 5,000万 補助金 3,000万	

貸借対照表

(単位：千円)

科目名	一般会計等	連結会計
固定資産	3,981,159	4,838,644
有形固定資産	3,981,059	4,005,105
事業用資産	3,478,012	3,502,041
インフラ資産	-	-
物品	503,047	503,064
無形固定資産	-	-
投資その他の資産	100	833,540
流動資産	224,946	232,752
現金預金	224,946	231,061
未収金	-	-
その他	-	1,691
徴収不能引当金	-	-
繰延資産	-	-
資産合計	4,206,105	5,071,396
固定負債	2,961,348	3,777,089
地方債	1,803,233	1,812,974
退職手当引当金	1,085,973	1,891,974
その他	72,141	72,141
流動負債	573,667	577,453
1年内償還予定地方債	399,612	403,029
賞与等引当金	123,722	123,877
その他	50,333	50,547
負債合計	3,535,015	4,354,541
純資産合計	671,090	716,855
負債及び純資産合計	4,206,105	5,071,396

※表示単位金額未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

令和3年度一般会計等では、資産は42.1億円、負債は35.4億円、資産と負債の差額である純資産は6.7億円となりました。

資産のうち、固定資産は39.8億円、流動資産は2.2億円です。固定資産が資産全体の12.6%を占めており、過去に調達した税収や国庫補助金等、地方債などの財源の9割以上が住民サービスのための固定資産形成に充てられていることがわかります。

一方負債は、固定負債が29.6億円、流動負債が5.7億円です。このうち地方債（1年内含む）は22.0億円、退職手当引当金は10.9億円となっています。

なお、連結会計の資産は50.7億円、負債は43.5億円、純資産は43.5億円です。

(2) 行政コスト計算書

◆ 行政コスト計算書（PL）とは…

民間企業でいうところの「損益計算書」にあたるもので、当該会計年度の行政活動による発生コストと住民の受益者負担などの関係を示す財務書類です。

経常的に発生するものと、臨時的に発生するものとを区分して表示しています。

<p style="text-align: center;">経常費用</p> <p>①人件費 ②物件費等 ③その他 ④移転費用</p>	<p>◇ 経常費用----- 資産の形成には結びつかない行政サービスのために費やしたもの</p> <p>① 人件費----- 職員給与や議員報酬などいわゆる「人に係るコスト」</p> <p>② 物件費等----- 備品、消耗品及び施設等の維持補修にかかる経費や減価償却費（社会資本の経年劣化等に伴う減少額）などいわゆる「モノに係るコスト」</p> <p>③ その他業務費用-- 支払利息、徴収不能引当金繰入額、市町村債償還の利子などいわゆる「お金に係るコスト」</p> <p>④ 移転費用----- 他会計への繰出金、補助金等、社会保障給付、他団体への資産整備補助金など</p>
<p style="text-align: center;">経常収益</p>	<p>◇ 経常収益----- 行政サービス提供により住民等がその対価として支払い、自治体が得られるもの</p>
<p style="text-align: center;">臨時損失</p>	<p>◇ 臨時損失----- 災害復旧に関する費用、資産の売却による収入が帳簿価額を下回る場合の差額及び除却した資産の除却時の帳簿価額などの臨時的な損失</p>
<p style="text-align: center;">臨時利益</p>	<p>◇ 臨時利益----- 資産の売却による収入が帳簿価額を上回る場合の差額などの臨時的な利益</p>
<p style="text-align: center;">純行政コスト</p>	

行政コスト計算書

(単位：千円)

科目名	一般会計等	連結会計
経常費用	2,833,131	2,853,082
業務費用	2,652,639	2,677,665
人件費	1,975,505	1,978,795
物件費等	667,480	689,214
物件費	362,383	373,196
維持補修費	28,663	28,663
減価償却費	276,434	287,354
その他	-	-
その他の業務費用	9,654	9,657
移転費用	180,492	175,417
経常収益	69,338	70,562
純経常行政コスト	2,763,793	2,782,520
臨時損失	960	1,079
臨時利益	3,239	3,358
純行政コスト	2,761,514	2,780,241

※表示単位金額未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

令和3年度一般会計等では、経常費用は28.3億円、経常収益は0.7億円、両者の差額である純経常行政コストは27.6億円、純行政コストに臨時損益を加減した純行政コストは27.6億円となりました。

なお、経常費用のうち人件費・物件費等からなる業務費用は26.5億円、補助金等・社会保障給付等からなる移転費用は1.8億円となっており、経常費用のうち業務費用が93.6%を占めています。その中でも、物件費は3.6億円と最も大きくなっています。

また、連結会計では、経常費用は28.3億円、経常収益は0.7億円、純経常行政コストは28.3億円、純行政コストは27.6億円となりました。

(3) 純資産変動計算書

◆ 純資産変動計算書（NW）とは…

純資産（過去及び現役世代や国・県が負担した将来返済なくてよい財産）の、内訳と増減を表したものです。

前年度末残高	◇ 純行政コスト	行政コスト計算書の純行政コスト
純行政コスト	◇ 財源	税金等、国庫補助金などの財源
財源	◇ 固定資産等の変動（内部変動）	
固定資産等の変動	① 有形固定資産及び無形固定資産の形成による保有資産の増加額又は形成のために支出した金額（資産評価差額・無償所管換等を除く）	
資産評価差額	② 貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額又は新たな貸付金・基金等のために支出した金額	
無償所管換等	③ 有形固定資産及び無形固定資産の減価償却費相当額、除売却による減少額又は形成のために支出した金額（資産評価差額・無償所管換等を除く）	
本年度末残高	◇ 資産評価差額	資産の評価替えに係る差額
	◇ 無償所管換等	無償で譲渡又は取得した固定資産の評価額等

純資産変動計算書

(単位：千円)

科目名	一般会計等	連結会計
前年度末純資産残高	535,718	589,634
純行政コスト(△)	△ 2,761,514	△ 2,780,241
財源	2,896,886	2,907,197
本年度差額	135,372	126,956
固定資産等の変動(内部変動)	-	-
資産評価差額	-	-
無償所管換等	-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-	266
その他	-	-
本年度純資産変動額	135,372	127,221
本年度末純資産残高	671,090	716,855

※表示単位金額未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

令和3年度一般会計等では、本年度差額が1.4億円となりました。

純行政コストが27.6億円であったのに対し、これに対応する税収等の財源は29.0億円であったため、余剰が生じました。

資産形成を伴わない、行政活動に係るコストを地方税・地方交付税等の当該年度の一般財源等で賄えていることから、健全な組合運営が出来ているといえます。

また、上記以外の要因による純資産の変動は生じなかったため、純資産変動額も1.4億円となり、本年度末資金残高は6.7億円となりました。

なお、連結会計では、本年度差額は1.3億円、本年度純資産変動額は1.3億円、本年度末資金残高は7.2億円となりました。

(4) 資金収支計算書

◆ 資金収支計算書（CF）とは…

一会計期間中の現金の受払いを3つの区分（業務活動 / 投資活動 / 財務活動）で表示したものです。

業務活動収支	① 業務活動収支 行政サービスを行なう中で、毎年度継続的に収入、支出されるものを表します。
投資活動収支	② 投資活動収支 学校、公園、道路などの資産形成や投資、基金などの収入、支出などを表します。
財務活動収支	③ 財務活動収支 地方債の発行による収入、償還による支出を表します。
前年度末残高	
本年度末残高	

※CF本年度残高とBS現金及び預金は、歳計外現金がある場合には、差額が生じます。

$$\text{BS現金及び預金} = \text{CF本年度残高} + \text{本年度歳計外現金}$$

資金収支計算書

(単位：千円)

科目	一般会計等	連結会計
業務支出	2,541,965	2,550,979
業務費用支出	2,361,474	2,375,562
移転費用支出	180,492	175,417
業務収入	2,932,755	2,944,219
臨時支出	-	-
臨時収入	433	433
業務活動収支	391,223	393,673
投資活動支出	407,688	407,799
投資活動収入	36,274	37,773
投資活動収支	△ 371,414	△ 370,026
財務活動支出	407,486	408,585
財務活動収入	338,600	338,600
財務活動収支	△ 68,886	△ 69,985
本年度資金収支額	△ 49,077	△ 46,338
前年度末資金残高	264,079	267,227
比例連結割合変更に伴う差額	-	16
本年度末資金残高	215,002	220,904

前年度末歳計外現金残高	9,580	9,708
本年度歳計外現金増減額	364	450
本年度末歳計外現金残高	9,944	10,157
本年度末現金預金残高	224,946	231,061

※表示単位金額未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

令和3年度一般会計等では、業務活動収支は3.9億円、投資活動収支は-3.7億円、財務活動収支は-0.7億円であったため、本年度資金収支額は-0.5億円、これにより本年度末資金残高は2.2億円となりました。

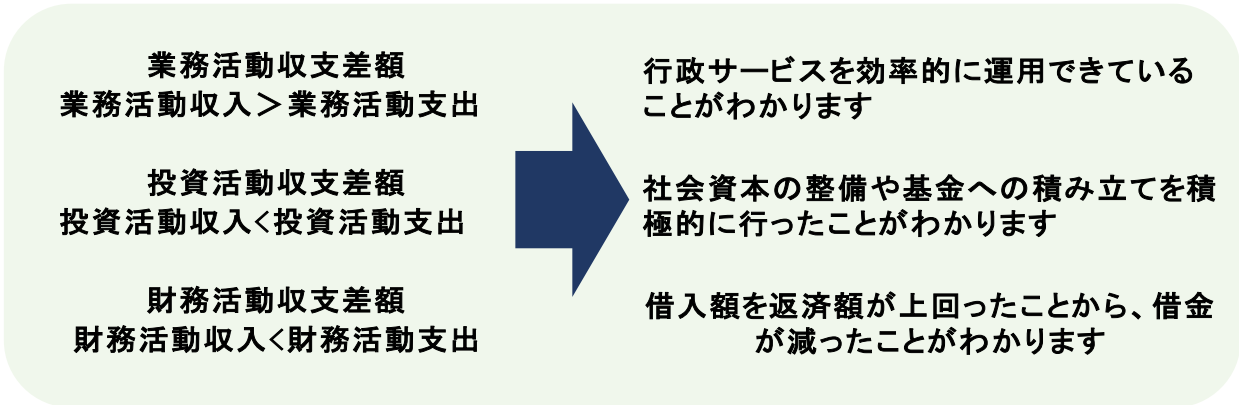
業務活動により生じた余剰資金が、公共施設整備（投資活動）及び地方債の償還（財務活動）に充当されたことが分かります。

なお、連結会計では、業務活動収支は3.9億円、投資活動収支は-3.7億円、財務活動収支は-0.7億円であったため、本年度資金収支額は-0.5億円、本年度末資金残高は、2.2億円となりました。

◆ 資金収支計算書の各活動収支を用いた分析例

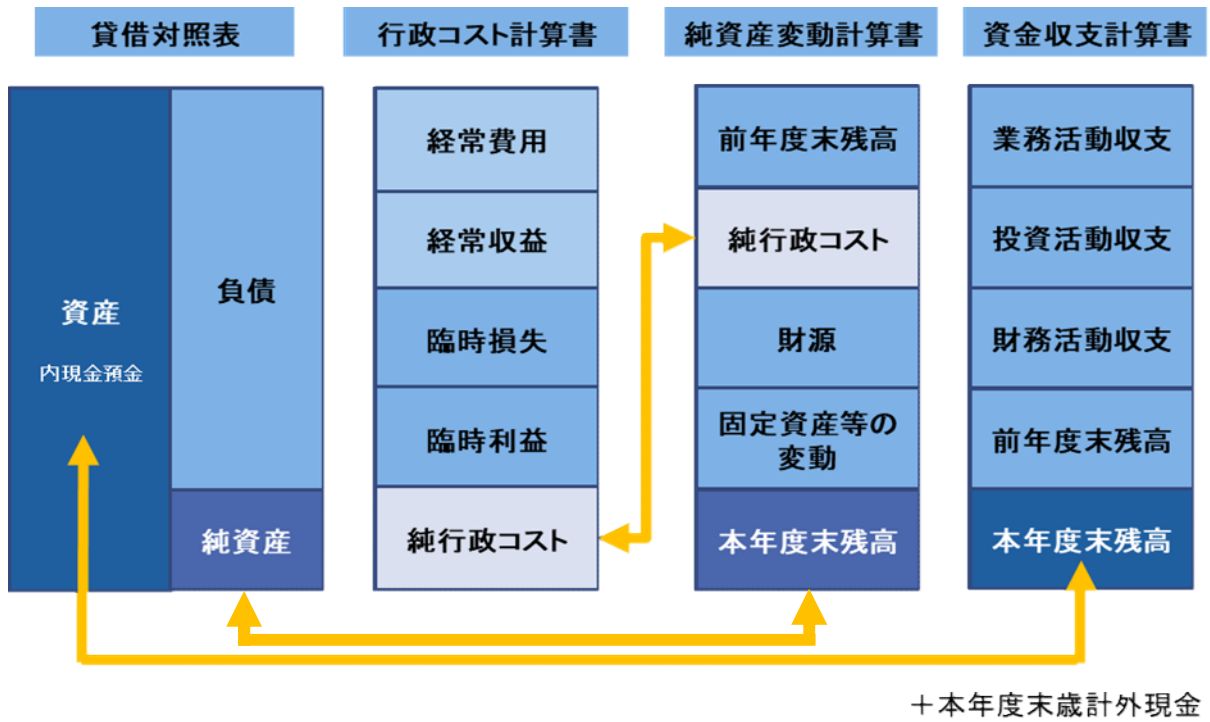
業務活動	投資活動	財務活動	＜考えられる理由(あくまで一例)＞
+	+	+	→ 集めた資金を使っていない。非現実的。
+	+	-	→ 活動全般を抑制し、借金の返済を優先している。
+	-	+	→ 借入も行い、大規模なインフラ整備を図っている。
+	-	-	→ 税金等に余裕があり、借金の返済もできている。
-	+	+	→ 収入の不足分を投資抑制や借金で埋めている。
-	+	-	→ 税金が不足しているが、投資抑制で借金返済。
-	-	+	→ 業務活動とインフラ整備の資金を借金に依存。
-	-	-	→ 資金が枯渇している。非現実的。

「新公会計シンポジウム 2017」(主催：新公会計制度普及促進連絡会議) 大塚成男 千葉大学大学院教授 基調講演資料より抜粋し、加工



4 財務書類の相互関係

統一的な基準による財務書類4表の相互関係は以下のイメージのとおりです。



第3章 財務書類の経年比較

1 貸借対照表の経年比較

(1) 一般会計等 貸借対照表

(単位：千円)

科目名	令和3年度	前年度比		令和2年度
		増減額	増減率	
【資産の部】				
固定資産	3,981,159	130,294	3.4%	3,850,865
有形固定資産	3,981,059	130,294	3.4%	3,850,765
事業用資産	3,478,012	189,753	5.8%	3,288,259
土地	214,934	-	0.0%	214,934
建物	3,084,604	430,560	16.2%	2,654,044
工作物	175,966	△10,107	△5.4%	186,073
その他	-	-	0.0%	-
建設仮勘定	2,508	△230,700	△98.9%	233,208
インフラ資産	-	-	0.0%	-
土地	-	-	0.0%	-
建物	-	-	0.0%	-
工作物	-	-	0.0%	-
その他	-	-	0.0%	-
建設仮勘定	-	-	0.0%	-
物品	503,047	△59,459	△10.6%	562,506
無形固定資産	-	-	0.0%	-
投資その他の資産	100	-	0.0%	100
投資及び出資金	100	-	0.0%	100
長期延滞債権	-	-	0.0%	-
基金	-	-	0.0%	-
その他	-	-	0.0%	-
徴収不能引当金	-	-	0.0%	-
流動資産	224,946	△48,713	△17.8%	273,659
現金預金	224,946	△48,713	△17.8%	273,659
未収金	-	-	0.0%	-
基金	-	-	0.0%	-
その他	-	-	0.0%	-
徴収不能引当金	-	-	0.0%	-
資産合計	4,206,105	81,581	2.0%	4,124,524
【負債の部】				
固定負債	2,961,348	△ 82,685	△2.7%	3,044,033
地方債	1,803,233	△ 61,013	△3.3%	1,864,246
退職手当引当金	1,085,973	18,716	1.8%	1,067,257
その他	72,141	△ 40,390	△35.9%	112,531
流動負債	573,667	28,895	5.3%	544,772
1年内償還予定地方債	399,612	34,857	9.6%	364,755
賞与等引当金	123,722	△ 3,984	△3.1%	127,706
その他	50,333	△ 1,978	△3.8%	52,311
負債合計	3,535,015	△ 53,790	△1.5%	3,588,805
【純資産の部】				
固定資産等形成分	3,981,159	130,294	3.4%	3,850,865
余剰分（不足分）	△3,310,069	5,078	0.2%	△3,315,147
純資産合計	671,090	135,372	25.3%	535,718
負債及び純資産合計	4,206,105	81,581	2.0%	4,124,524

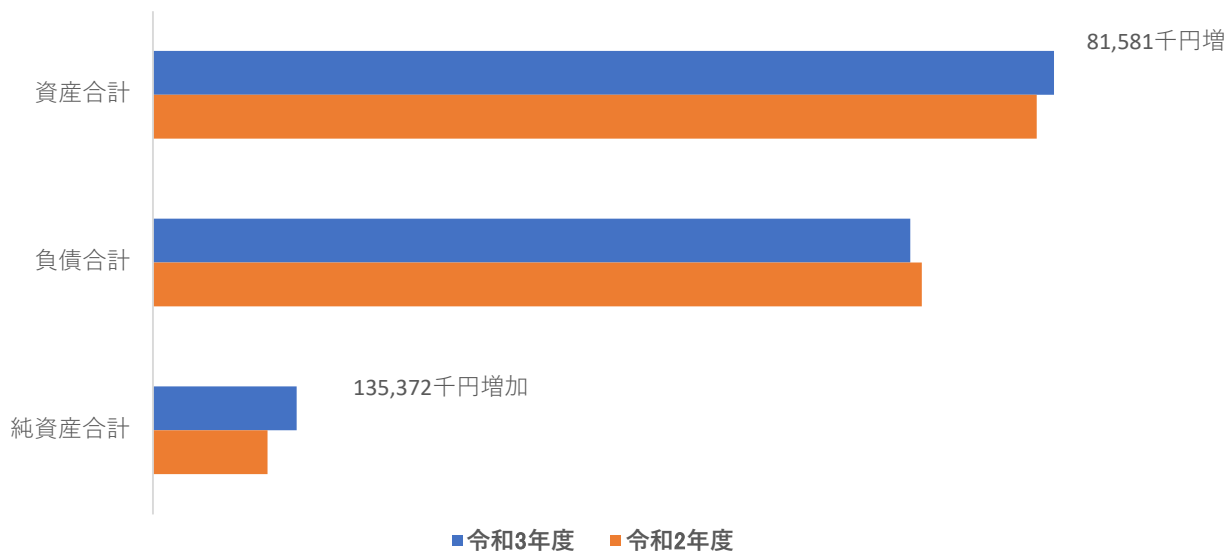
令和3年度は前年度に比べて、資産は0.8億円増加し42.1億円、負債は0.5億円減少し35.4億円、両者の差額である純資産は1.4億円増加し6.7億円となりました。

資産のうち、前年度において建設仮勘定に計上されていた千倉分署及び天津小湊分遣所の工事費用は、令和3年度の当該工事に係る公共施設等整備費支出と併せて本勘定振替により建物に振り替えられました。このこと等により、建物は4.3億円増加、建設仮勘定は2.3億円減少しました。

一方負債は、固定負債が0.8億円、流動負債が0.3億円それぞれ減少しました。

なお、地方債（1年内含む）は0.3億円減少、退職手当引当金は0.2億円増加しました。なお、増減率ではいずれも2%以下となっています。

一般会計等の経年比較



(2) 指標分析

①【住民一人当たり資産額】 = 資産合計 ÷ 人口

$$\frac{\text{資産合計}}{\text{令和3年度 人口}} = \frac{4,206,105,217\text{円}}{116,786\text{人}} \begin{matrix} \text{前年度比} \\ \uparrow(102.0\%) \\ \downarrow(98.3\%) \end{matrix} = 36,015\text{円}$$

②【住民一人当たり負債額】 = 負債合計 ÷ 人口

$$\frac{\text{負債合計}}{\text{令和3年度 人口}} = \frac{3,535,015,072\text{円}}{116,786\text{人}} \begin{matrix} \text{前年度比} \\ \downarrow(98.5\%) \\ \downarrow(98.3\%) \end{matrix} = 30,269\text{円}$$

資産額及び負債額を人口で除して住民一人当たりの額で表示することにより、住民等にとって分かりやすい情報となるとともに、他団体との比較が容易になります。

③【歳入額対資産比率】 = 資産合計 ÷ 歳入総額(前年度末資金残高含む)

$$\frac{\text{資産合計}}{\text{歳入総額(前年度末資金残高含む)}} = \frac{4,206,105,217\text{円}}{3,572,141,828\text{円}} \begin{matrix} \text{前年度比} \\ \uparrow(102.0\%) \\ \downarrow(96.5\%) \end{matrix} = 1.18\text{年}$$

当該年度の歳入総額に対する資産の比率を算出することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができます。

④【有形固定資産減価償却率】

= 減価償却累計額 / (有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額)

$$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額}} = \frac{1,394,664,053\text{円}}{4,655,233,757\text{円}} \begin{matrix} \text{前年度比} \\ \uparrow(108.3\%) \\ \uparrow(112.8\%) \end{matrix} = 30.0\%$$

有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。さらに、固定資産台帳等を活用すれば、行政目的別や施設別の有形固定資産減価償却率も算出することができます。

⑤【純資産比率】 = 純資産合計 ÷ 資産合計

$$\frac{\text{純資産合計}}{\text{資産合計}} = \frac{671,090,145\text{円}}{4,206,105,217\text{円}} \times \frac{\text{前年度比} \uparrow(125.3\%) }{\uparrow(102.0\%)} = 16.0\%$$

企業会計の「自己資本比率」に相当し、資産のうち償還義務のない純資産がどれくらいの割合かを表します。この比率が高いほど負債（将来世代の負担）の割合が少ないこととなりますが、現在世代と将来世代との負担のバランスを取ることも必要です。

⑥【将来世代負担比率】 = 地方債（特例地方債を除く） ÷ 有形・無形固定資産

$$\frac{\text{地方債（特例地方債を除く）}}{\text{有形・無形固定資産}} = \frac{2,202,845,567\text{円}}{3,981,059,179\text{円}} \times \frac{\text{前年度比} \downarrow(98.8\%) }{\uparrow(103.4\%)} = 55.3\%$$

社会資本形成の結果を表す公共資産のうち、純資産又は負債による割合を見ることにより、これまでの世代（過去及び現役世代）又は将来世代によって負担する割合を見ることができます。

経年比較表

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
住民一人当たり資産額	36,015円	34,719円	103.7%
住民一人当たり負債額	30,269円	30,209円	100.2%
歳入額対資産比率	1.18年	1.11年	106.3%
有形固定資産減価償却率	30.0%	31.2%	96.2%
純資産比率	16.0%	13.0%	123.1%
将来世代負担比率	55.3%	57.9%	95.5%

2 行政コスト計算書の経年比較

(1) 一般会計等 行政コスト計算書

(単位：千円)

科目名	令和3年度	前年度比		令和2年度
		増減額	増減率	
経常費用	2,833,131	△13,452	△0.5%	2,846,583
業務費用	2,652,639	△8,713	△0.3%	2,661,352
人件費	1,975,505	△89,075	△4.3%	2,064,580
職員給与費	1,832,281	△16,605	△0.9%	1,848,886
賞与等引当金繰入額	123,722	△3,984	△3.1%	127,706
退職手当引当金繰入額	18,716	△68,484	△78.5%	87,200
その他	787	△1	△0.1%	788
物件費等	667,480	81,082	13.8%	586,398
物件費	362,383	10,534	3.0%	351,849
維持補修費	28,663	27,893	3,622.5%	770
減価償却費	276,434	42,656	18.2%	233,778
その他	-	-	0.0%	-
その他の業務費用	9,654	△720	△6.9%	10,374
支払利息	8,235	△828	△9.1%	9,063
徴収不能引当金繰入額	-	-	0.0%	-
その他	1,419	108	8.2%	1,311
移転費用	180,492	△4,739	△2.6%	185,231
補助金等	179,046	△4,876	△2.7%	183,922
社会保障給付	-	-	0.0%	-
他会計への繰出金	-	-	0.0%	-
その他	1,445	137	10.5%	1,308
経常収益	69,338	1,585	2.3%	67,753
使用料及び手数料	43,905	2,913	7.1%	40,992
その他	25,433	△1,327	△5.0%	26,760
純経常行政コスト	2,763,793	△15,037	△0.5%	2,778,830
臨時損失	960	960	-	-
災害復旧事業費	-	-	0.0%	-
資産除売却損	960	960	-	-
投資損失引当金繰入額	-	-	0.0%	-
損失補償等引当金繰入額	-	-	0.0%	-
その他	-	-	0.0%	-
臨時利益	3,239	845	35.3%	2,394
資産売却益	3,239	845	35.3%	2,394
その他	-	-	0.0%	-
純行政コスト	2,761,514	△14,922	△0.5%	2,776,436

※表示単位金額未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

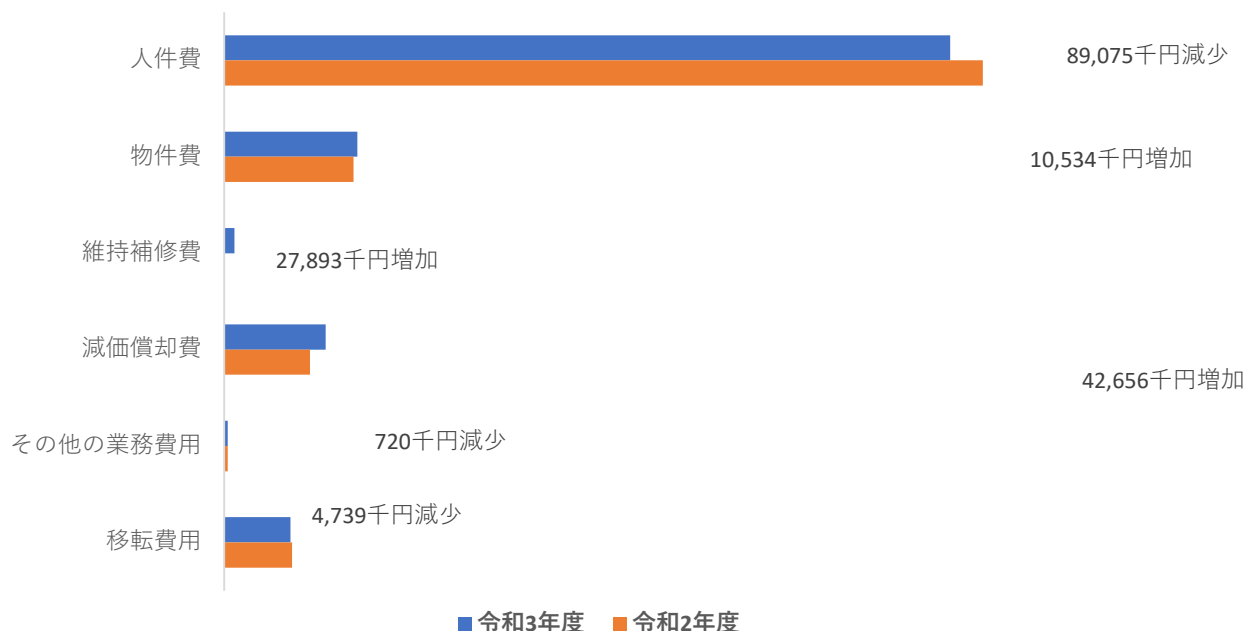
令和3年度は前年度に比べて、経常費用は0.1億円減少し28.3億円、経常収益は1.6百万円増加し0.7億円、純経常行政コストは0.2億円減少し、27.6億円となりました。

令和3年度は前年度に比べて、経常費用は、0.1億円減少し28.3億円となりました。

経常費用のうち、物件費等は0.8億円増加、人件費は0.9億円減少となったため業務費用については0.1億円減少し26.5億円となりました。移転費用については4.7百万円減少し1.8億円となりました。人件費は前年度に比べ、すべての項目が減少しております。また、物件費等はすべての項目が増加しておりますが、主な増加の要因として減価償却費が令和2年度に取得した3台の救急車及び消防車の償却が始まったことにより、0.4億円増加したことが挙げられます。

なお、車両3台の売却により売却益が3.2百万円計上されています。このため、純経常行政コストに臨時損失・臨時利益を加減した純行政コストは0.1億円減少し27.6億円となりました。

一般会計等の費用の経年比較



(2) 指標分析

①【住民一人当たり行政コスト】 = 純行政コスト ÷ 人口

$$\frac{\text{純行政コスト}}{\text{令和3年度 人口}} = \frac{2,761,513,745\text{円}}{116,786\text{人}} \begin{array}{l} \text{前年度比} \\ \Downarrow(99.5\%) \\ \Downarrow(98.3\%) \end{array} = 23,646\text{円}$$

②【住民一人当たり人件費】 = 人件費 ÷ 人口

$$\frac{\text{人件費}}{\text{令和3年度 人口}} = \frac{1,975,505,138\text{円}}{116,786\text{人}} \begin{array}{l} \text{前年度比} \\ \Downarrow(95.7\%) \\ \Downarrow(98.3\%) \end{array} = 16,916\text{円}$$

③【住民一人当たり物件費】 = 物件費等 ÷ 人口

$$\frac{\text{物件費等}}{\text{令和3年度 人口}} = \frac{667,480,135\text{円}}{116,786\text{人}} \begin{array}{l} \text{前年度比} \\ \Uparrow(113.8\%) \\ \Downarrow(98.3\%) \end{array} = 5,715\text{円}$$

④【住民一人当たりその他業務費用】 = その他業務費用 ÷ 人口

$$\frac{\text{その他業務費用}}{\text{令和3年度 人口}} = \frac{9,654,136\text{円}}{116,786\text{人}} \begin{array}{l} \text{前年度比} \\ \Downarrow(93.1\%) \\ \Downarrow(98.3\%) \end{array} = 83\text{円}$$

⑤【住民一人当たり移転費用】 = 移転費用 ÷ 人口

$$\frac{\text{移転費用}}{\text{令和3年度 人口}} = \frac{180,491,626\text{円}}{116,786\text{人}} \begin{array}{l} \text{前年度比} \\ \Downarrow(99.5\%) \\ \Downarrow(98.3\%) \end{array} = 1,545\text{円}$$

自治体運営の効率性を測るためには、行政コストに着目することが有効ですが、地方公共団体の人口規模や面積等により、必要となるコストは異なるため、単純比較することは適切ではありません。住民一人当たりの行政コスト及び各費用科目毎の額を算出することにより、住民にとってもわかりやすい情報となるとともに、類似団体と比較することで、当該団体の効率性の度合いを分析することができます。

⑥【受益者負担比率】 = 経常収益 ÷ 経常費用

$$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} = \frac{69,338,398\text{円}}{2,833,131,035\text{円}} \begin{array}{l} \text{前年度比} \\ \Uparrow(102.3\%) \\ \Downarrow(99.5\%) \end{array} = 2.4\%$$

行政サービスに要したコストに対して受益者が負担する使用料・手数料などの割合を示しています。なお、受益者が負担していない部分については、地方税や地方交付税、補助金等により賄うことになるため、当該比率が他の自治体に比べて低い場合には、使用料・手数料や分担金・負担金などの水準を見直すことも検討する必要があります。

経年比較表

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
住民一人当たり行政コスト	23,646円	23,371円	101.2%
住民一人当たり人件費	16,916円	17,379円	97.3%
住民一人当たり物件費	5,715円	4,936円	115.8%
住民一人当たりその他の業務費用	83円	87円	95.4%
住民一人当たり移転費用	1,545円	1,559円	99.1%
受益者負担比率	2.4%	2.4%	100.0%

3 純資産変動計算書の比較分析

(1) 一般会計等 純資産変動計算書

(単位：千円)

科目名	令和3年度	前年度比		令和2年度
		増減額	増減率	
前年度末純資産残高	535,718	284,956	113.6%	250,762
純行政コスト(△)	△2,761,514	14,922	0.5%	△2,776,436
財源	2,896,886	△164,507	△5.4%	3,061,393
税収等	2,863,417	△145,188	△4.8%	3,008,605
国県等補助金	33,469	△19,319	△36.6%	52,788
本年度差額	135,372	△149,585	△52.5%	284,957
固定資産等の変動(内部変動)	-	-	0.0%	-
資産評価差額	-	-	0.0%	-
無償所管換等	-	-	0.0%	-
その他	-	-	0.0%	-
本年度純資産変動額	135,372	△149,585	△52.5%	284,957
本年度末純資産残高	671,090	135,372	25.3%	535,718

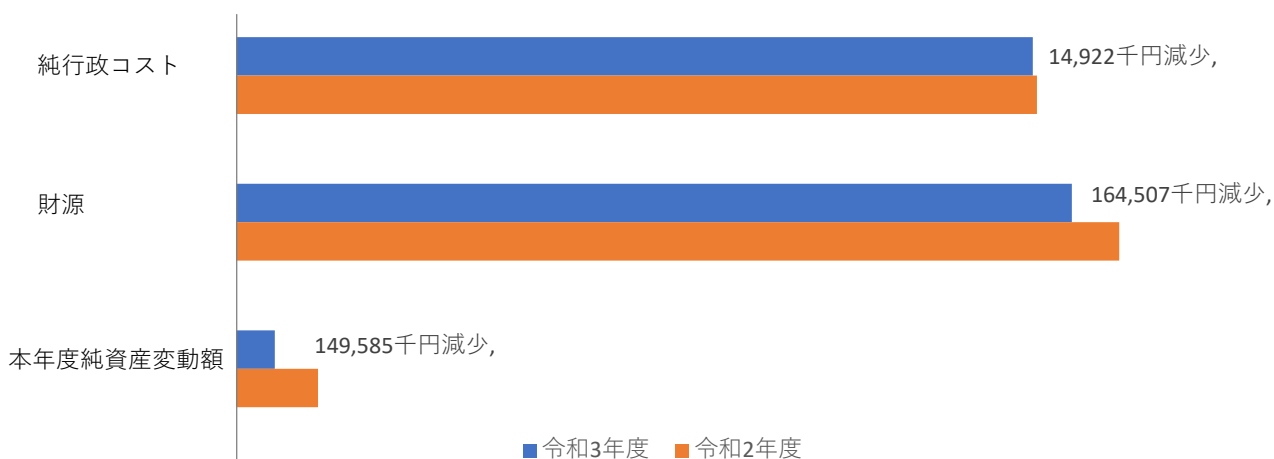
※表示単位金額未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

令和3年度の純行政コストは、前年度に比べて0.1億円減少し27.6億円となりました。

一方、これに対応する税収等は1.5億円、国県等補助金は0.2億円それぞれ減少したため、財源は1.6億円減少し、29.0億円となりました。

このため、本年度差額は1.5億円減少し1.4億円となりました。また、上記以外の要因による純資産の変動は生じなかったため、純資産変動額も1.4億円です。このため、本年度末純資産残高は6.7億円となりました。

一般会計等の純資産の経年比較



(2) 指標分析

①【行政コスト対財源比率】 = 純経常行政コスト ÷ 財源

$$\frac{\text{純経常行政コスト}}{\text{財源}} = \frac{2,763,792,637\text{円}}{2,896,885,661\text{円}} \times \frac{\text{前年度比}}{\text{前年度比}} = \frac{\downarrow(99.5\%)}{\downarrow(94.6\%)} = 95.4\%$$

税金等の一般財源等に対する行政コストの比率を算出することによって、当該年度の税金等のうち、どれだけ資産形成を伴わない行政コストに費消されたのかを把握することができます。

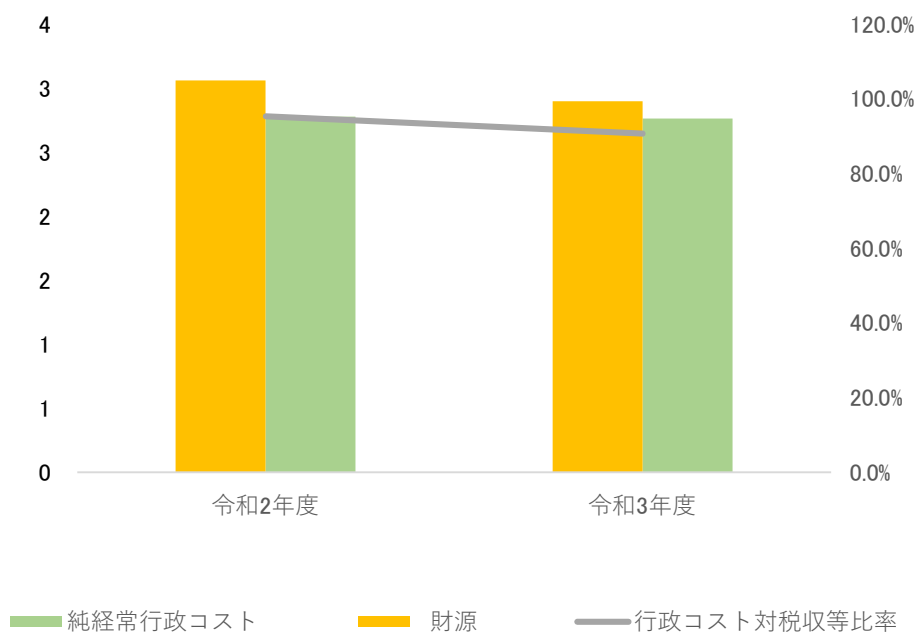
当該比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いといえ、さらに100%を上回ると、過去から蓄積した資産が取り崩されたことを表します。

経年比較表

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
行政コスト対税金等比率	95.4%	90.8%	105.1%

行政コスト対財源比率の推移

(百万円)



4 資金収支計算書の経年比較

(1) 一般会計等 資金収支計算書

(単位：千円)

科目名	令和3年度	前年度比		令和2年度
		増減額	増減率	
【業務活動収支】				
業務支出	2,541,965	14,544	0.6%	2,527,421
業務費用支出	2,361,474	19,283	0.8%	2,342,191
人件費支出	1,960,773	△18,424	△0.9%	1,979,197
物件費等支出	391,046	38,427	10.9%	352,619
支払利息支出	8,235	△828	△9.1%	9,063
その他の支出	1,419	108	8.2%	1,311
移転費用支出	180,492	△4,739	△2.6%	185,231
補助金等支出	179,046	△4,876	△2.7%	183,922
社会保障給付支出	-	-	0.0%	-
その他の支出	1,445	137	10.5%	1,308
業務収入	2,932,755	△196,391	△6.3%	3,129,146
税収等収入	2,863,417	△145,188	△4.8%	3,008,605
国県等補助金収入	-	△52,788	△100.0%	52,788
使用料及び手数料収入	43,905	2,913	7.1%	40,992
その他の収入	25,433	△1,327	△5.0%	26,760
臨時支出	-	-	0.0%	-
災害復旧事業費支出	-	-	0.0%	-
その他の支出	-	-	0.0%	-
臨時収入	433	433	-	-
業務活動収支	391,223	△210,501	△35.0%	601,724
【投資活動収支】				
投資活動支出	407,688	△108,594	△21.0%	516,282
公共施設等整備費支出	407,688	△108,594	△21.0%	516,282
基金積立金支出	-	-	0.0%	-
その他の支出	-	-	0.0%	-
投資活動収入	36,274	33,880	1,415.2%	2,394
国県等補助金収入	33,035	33,035	-	-
基金取崩収入	-	-	0.0%	-
資産売却収入	3,239	845	35.3%	2,394
その他の収入	-	-	0.0%	-
投資活動収支	△371,414	142,475	27.7%	△513,889
【財務活動収支】				
財務活動支出	407,486	12,463	3.2%	395,023
地方債償還支出	364,755	12,281	3.5%	352,474
その他の支出	42,731	182	0.4%	42,549
財務活動収入	338,600	△22,600	△6.3%	361,200
地方債発行収入	338,600	△15,500	△4.4%	354,100
その他の収入	-	△7,100	△100.0%	7,100
財務活動収支	△68,886	△35,063	△103.7%	△33,823
本年度資金収支額	△49,077	△103,090	△190.9%	54,013
前年度末資金残高	264,079	54,013	25.7%	210,066
本年度末資金残高	215,002	△49,077	△18.6%	264,079

※表示単位金額未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

令和3年度における業務活動収支は、前年度に比べて2.1億円減少し、3.9億円となりました。

業務支出については前年度並みの25.4億円でしたが、業務収入は2.0億円減少し、29.3億円となりました。

投資活動収支については1.4億円増加し、-3.7億円となりました。

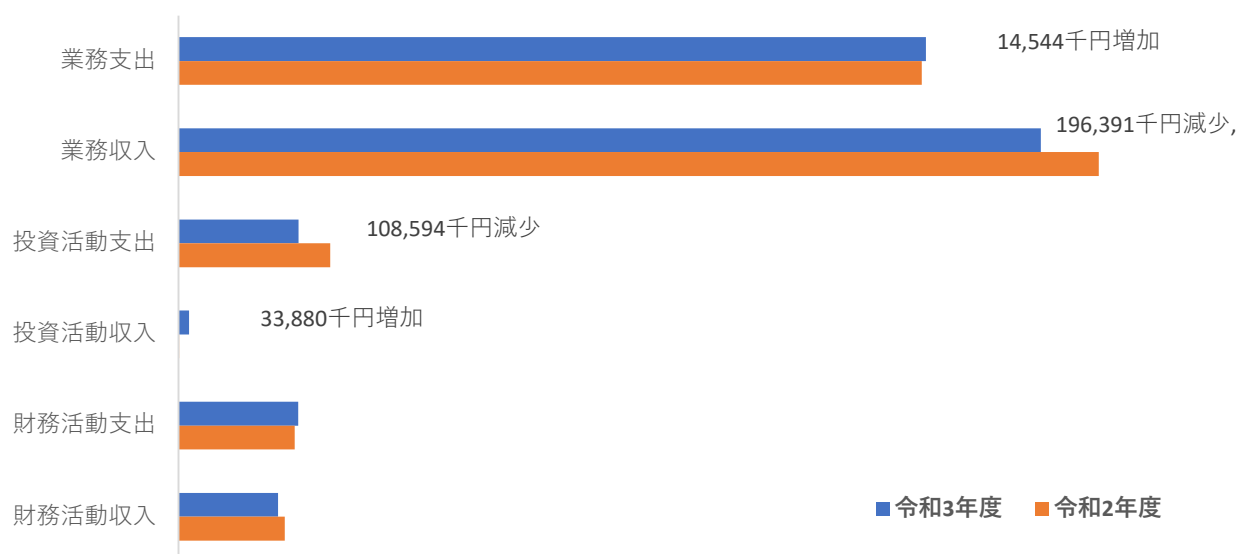
投資活動支出4.1億円は全額公共施設等整備費支出です。令和3年度は主に天津小湊分遣所・千倉分署の建設、災害対応用特殊車両の購入のために支出され、前年度に比べて1.1億円減少しました。

投資活動収入については、資産売却収入が増加したほか、国県等補助金収入が皆増となったため、0.3億円増加し、0.4億円となりました。

財務活動収支については、0.4億円減少し-0.7億円となりました。このうち、地方債償還支出は0.1億円増加し3.6億円、発行収入は0.2億円減少し3.4億円でした。償還額が発行額を超過しており、地方債残高は前年度に比べて0.3億円減少しました。

上記の事由により、本年度資金収支額は前年度に比べて1.0億円減少し、-0.5億円となったため、本年度末資金残高は2.2億円となりました。

一般会計等の資金収支の経年比較



(2) 指標分析

①【基礎的財政収支(プライマリーバランス)】

= 業務活動収支（支払利息支出を除く） + 投資活動収支（基金を除く）

$$399,458,669円 + (\triangle 371,413,926円) = 28,044,743円$$

資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く。）及び投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。）の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標となり、当該バランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加しないとされています。

②【債務償還比率】

= (将来負担額 - 充当可能財源) / (経常一般財源等（歳入） - 経常経費充当財源等)

$$\frac{\text{将来負担額} - \text{充当可能財源}}{\text{経常一般財源等（歳入）} - \text{経常経費充当財源等}} = \frac{-}{-} = -$$

債務償還比率は、債務償還に充当できる一般財源（＝償還充当限度額）に対する実質債務の比率を示す指標です。債務の償還原資を経常的な業務活動からどれだけ確保できる見込みがあるかということは、債務償還能力を把握する上で重要な視点の一つです。

※「地方公会計の推進に関する研究会（令和元年度）報告書」により「債務償還可能年数」から「債務償還比率」という名称に改められました。また、当該指標は決算統計等の指標を用いて算出していることから地方公会計としては「参考指標」としての位置づけになっています。

経年比較表

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
基礎的財政収支(プライマリーバランス)	28,045千円	96,898千円	28.9%
債務償還比率	-	-	-

5 指標一覧

(1) 一般会計等

貸借対照表

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
住民一人当たり資産額	36,015円	34,719円	103.7%
住民一人当たり負債額	30,269円	30,209円	100.2%
歳入額対資産比率	1.18年	1.11年	106.3%
有形固定資産減価償却率	30.0%	31.2%	96.2%
純資産比率	16.0%	13.0%	123.1%
将来世代負担比率	55.3%	57.9%	95.5%

行政コスト計算書

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
住民一人当たり行政コスト	23,646円	23,371円	101.2%
住民一人当たり人件費	16,916円	17,379円	97.3%
住民一人当たり物件費	5,715円	4,936円	115.8%
住民一人当たりその他の業務費用	83円	87円	95.4%
住民一人当たり移転費用	1,545円	1,559円	99.1%
受益者負担比率	2.4%	2.4%	100.0%

純資産変動計算書

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
行政コスト対税率等比率	95.4%	90.8%	105.1%

資金収支計算書

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
基礎的財政収支(プライマリーバランス)	28,045千円	96,898千円	28.9%
債務償還比率	-	-	-

(2) 連結会計

貸借対照表

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
住民一人当たり資産額	43,425円	41,849円	103.8%
住民一人当たり負債額	37,286円	36,886円	101.1%
歳入額対資産比率	1.41年	1.33年	106.0%
有形固定資産減価償却率	31.1%	32.2%	96.6%
純資産比率	14.1%	11.9%	118.5%
将来世代負担比率	55.3%	57.7%	95.8%

行政コスト計算書

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
住民一人当たり行政コスト	23,806円	23,612円	100.8%
住民一人当たり人件費	16,944円	17,403円	97.4%
住民一人当たり物件費	5,902円	5,173円	114.1%
住民一人当たりその他の業務費用	83円	87円	95.4%
住民一人当たり移転費用	1,502円	1,546円	97.2%
受益者負担比率	2.5%	2.4%	104.2%

純資産変動計算書

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
行政コスト対税収等比率	95.7%	91.4%	104.7%

資金収支計算書

指標	令和3年度	令和2年度	前年度比
基礎的財政収支(プライマリーバランス)	31,620千円	90,943千円	34.8%
債務償還比率	-	-	-

第4章 各種資料

統一的な基準の財務書類 令和3年度【一般会計等】

【様式第1号】

貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

会計：一般会計等

(単位：円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	3,981,159,179	固定負債	2,961,347,921
有形固定資産	3,981,059,179	地方債	1,803,233,324
事業用資産	3,478,011,788	長期未払金	-
土地	214,934,084	退職手当引当金	1,085,973,238
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	4,416,281,289	その他	72,141,359
建物減価償却累計額	-1,331,677,758	流動負債	573,667,151
工作物	238,952,468	1年内償還予定地方債	399,612,243
工作物減価償却累計額	-62,986,295	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	123,721,597
航空機	-	預り金	9,943,920
航空機減価償却累計額	-	その他	40,389,391
その他	-	負債合計	3,535,015,072
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	2,508,000	固定資産等形成分	3,981,159,179
インフラ資産	-	余剰分(不足分)	-3,310,069,034
土地	-		
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	1,760,282,200		
物品減価償却累計額	-1,257,234,809		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	100,000		
投資及び出資金	100,000		
有価証券	-		
出資金	-		
その他	100,000		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	-		
長期貸付金	-		
基金	-		
減債基金	-		
その他	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
流動資産	224,946,038		
現金預金	224,946,038		
未収金	-		
短期貸付金	-		
基金	-		
財政調整基金	-		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
資産合計	4,206,105,217	負債及び純資産合計	4,206,105,217

統一的な基準の財務書類 令和3年度【一般会計等】

【様式第2号】

行政コスト計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

会計：一般会計等

(単位：円)

科目名	金額
経常費用	2,833,131,035
業務費用	2,652,639,409
人件費	1,975,505,138
職員給与費	1,832,280,530
賞与等引当金繰入額	123,721,597
退職手当引当金繰入額	18,716,364
その他	786,647
物件費等	667,480,135
物件費	362,383,037
維持補修費	28,663,240
減価償却費	276,433,858
その他	-
その他の業務費用	9,654,136
支払利息	8,235,218
徴収不能引当金繰入額	-
その他	1,418,918
移転費用	180,491,626
補助金等	179,046,226
社会保障給付	-
他会計への繰出金	-
その他	1,445,400
経常収益	69,338,398
使用料及び手数料	43,905,355
その他	25,433,043
純経常行政コスト	2,763,792,637
臨時損失	960,001
災害復旧事業費	-
資産除売却損	960,001
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	3,238,893
資産売却益	3,238,893
その他	-
純行政コスト	2,761,513,745

統一的な基準の財務書類 令和3年度【一般会計等】

【様式第3号】

純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

会計：一般会計等

(単位：円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	
前年度末純資産残高	535,718,229	3,850,864,964	-3,315,146,735	
純行政コスト(△)	-2,761,513,745		-2,761,513,745	
財源	2,896,885,661		2,896,885,661	
収等	2,863,417,000		2,863,417,000	
国県等補助金	33,468,661		33,468,661	
本年度差額	135,371,916		135,371,916	
固定資産等の変動(内部変動)		130,294,215	-130,294,215	
有形固定資産等の増加		407,688,077	-407,688,077	
有形固定資産等の減少		-277,393,862	277,393,862	
貸付金・基金等の増加		-	-	
貸付金・基金等の減少		-	-	
資産評価差額	-	-	-	
無償所管換等	-	-	-	
その他	-	-	-	
本年度純資産変動額	135,371,916	130,294,215	5,077,701	
本年度末純資産残高	671,090,145	3,981,159,179	-3,310,069,034	

統一的な基準の財務書類 令和3年度【一般会計等】

【様式第4号】

資金収支計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

会計：一般会計等

(単位：円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	2,541,965,353
業務費用支出	2,361,473,727
人件費支出	1,960,773,314
物件費等支出	391,046,277
支払利息支出	8,235,218
その他の支出	1,418,918
移転費用支出	180,491,626
補助金等支出	179,046,226
社会保障給付支出	-
他会計への繰出支出	-
その他の支出	1,445,400
業務収入	2,932,755,398
税込等収入	2,863,417,000
国県等補助金収入	-
使用料及び手数料収入	43,905,355
その他の収入	25,433,043
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	433,406
業務活動収支	391,223,451
【投資活動収支】	
投資活動支出	407,688,077
公共施設等整備費支出	407,688,077
基金積立金支出	-
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	36,274,151
国県等補助金収入	33,035,255
基金取崩収入	-
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	3,238,896
その他の収入	-
投資活動収支	-371,413,926
【財務活動収支】	
財務活動支出	407,486,280
地方債償還支出	364,755,412
その他の支出	42,730,868
財務活動収入	338,600,000
地方債発行収入	338,600,000
その他の収入	-
財務活動収支	-68,886,280
本年度資金収支額	-49,076,755
前年度末資金残高	264,078,873
本年度末資金残高	215,002,118
前年度末歳計外現金残高	9,579,756
本年度歳計外現金増減額	364,164
本年度末歳計外現金残高	9,943,920
本年度末現金預金残高	224,946,038

統一的な基準の財務書類 令和3年度【連結会計】

【様式第1号】

連結貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

会計: 連結会計

(単位: 円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	4,838,644,264	固定負債	3,777,088,566
有形固定資産	4,005,104,685	地方債等	1,812,973,652
事業用資産	3,502,041,144	長期未払金	-
土地	217,155,379	退職手当引当金	1,891,973,555
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	4,416,281,289	その他	72,141,359
建物減価償却累計額	-1,331,677,758	流動負債	577,452,565
工作物	347,992,773	1年内償還予定地方債等	403,028,642
工作物減価償却累計額	-150,218,539	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	123,877,219
航空機	-	預り金	10,157,313
航空機減価償却累計額	-	その他	40,389,391
その他	-	負債合計	4,354,541,131
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	2,508,000	固定資産等形成分	4,840,334,785
インフラ資産	-	余剰分(不足分)	-4,123,479,711
土地	-	他団体出資等分	-
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	1,760,422,350		
物品減価償却累計額	-1,257,358,809		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	833,539,579		
投資及び出資金	304,000		
有価証券	-		
出資金	204,000		
その他	100,000		
長期延滞債権	373		
長期貸付金	10,894,032		
基金	822,340,897		
減債基金	-		
その他	822,340,897		
その他	277		
徴収不能引当金	-		
流動資産	232,751,941		
現金預金	231,061,420		
未収金	-		
短期貸付金	1,690,521		
基金	-		
財政調整基金	-		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
繰延資産	-	純資産合計	716,855,074
資産合計	5,071,396,205	負債及び純資産合計	5,071,396,205

統一的な基準の財務書類 令和3年度【連結会計】

【様式第2号】

連結行政コスト計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

会計: 連結会計

(単位: 円)

科目名	金額
経常費用	2,853,082,070
業務費用	2,677,665,021
人件費	1,978,794,717
職員給与費	1,835,249,246
賞与等引当金繰入額	123,877,219
退職手当引当金繰入額	18,716,364
その他	951,888
物件費等	689,213,588
物件費	373,196,113
維持補修費	28,663,240
減価償却費	287,354,235
その他	-
その他の業務費用	9,656,716
支払利息	8,235,218
徴収不能引当金繰入額	-
その他	1,421,498
移転費用	175,417,049
補助金等	173,971,292
社会保障給付	-
その他	1,445,757
経常収益	70,561,746
使用料及び手数料	43,905,355
その他	26,656,391
純経常行政コスト	2,782,520,324
臨時損失	1,079,147
災害復旧事業費	-
資産除売却損	960,001
損失補償等引当金繰入額	-
その他	119,146
臨時利益	3,358,039
資産売却益	3,238,893
その他	119,146
純行政コスト	2,780,241,432

統一的な基準の財務書類 令和3年度【連結会計】

【様式第3号】

連結純資産変動計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

会計:連結会計

(単位:円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	589,633,667	4,694,657,925	-4,105,024,258	-
純行政コスト(△)	-2,780,241,432		-2,780,241,432	-
財源	2,907,197,241		2,907,197,241	-
税収等	2,865,742,710		2,865,742,710	-
国県等補助金	41,454,531		41,454,531	-
本年度差額	126,955,809		126,955,809	-
固定資産等の変動(内部変動)		145,345,249	-145,345,249	
有形固定資産等の増加		407,688,077	-407,688,077	
有形固定資産等の減少		-288,314,239	288,314,239	
貸付金・基金等の増加		30,794,387	-30,794,387	
貸付金・基金等の減少		-4,822,976	4,822,976	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	-	-		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	265,598	331,611	-66,013	-
その他	-	-	-	
本年度純資産変動額	127,221,407	145,676,860	-18,455,453	-
本年度末純資産残高	716,855,074	4,840,334,785	-4,123,479,711	-

統一的な基準の財務書類 令和3年度【連結会計】

【様式第4号】

連結資金収支計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

会計: 連結会計

(単位: 円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	2,550,979,117
業務費用支出	2,375,562,068
人件費支出	1,964,045,999
物件費等支出	401,859,353
支払利息支出	8,235,218
その他の支出	1,421,498
移転費用支出	175,417,049
補助金等支出	173,971,292
社会保障給付支出	-
その他の支出	1,445,757
業務収入	2,944,218,809
税込等収入	2,865,742,710
国県等補助金収入	7,985,870
使用料及び手数料収入	43,905,355
その他の収入	26,584,874
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	433,406
業務活動収支	393,673,098
【投資活動収支】	
投資活動支出	407,799,143
公共施設等整備費支出	407,688,077
基金積立金支出	111,066
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	37,773,296
国県等補助金収入	33,035,255
基金取崩収入	373,524
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	4,364,517
その他の収入	-
投資活動収支	-370,025,847
【財務活動収支】	
財務活動支出	408,585,228
地方債等償還支出	365,854,360
その他の支出	42,730,868
財務活動収入	338,600,000
地方債等発行収入	338,600,000
その他の収入	-
財務活動収支	-69,985,228
本年度資金収支額	-46,337,977
前年度末資金残高	267,226,575
比例連結割合変更に伴う差額	15,509
本年度末資金残高	220,904,107
前年度末歳計外現金残高	9,707,631
本年度歳計外現金増減額	449,682
本年度末歳計外現金残高	10,157,313
本年度末現金預金残高	231,061,420

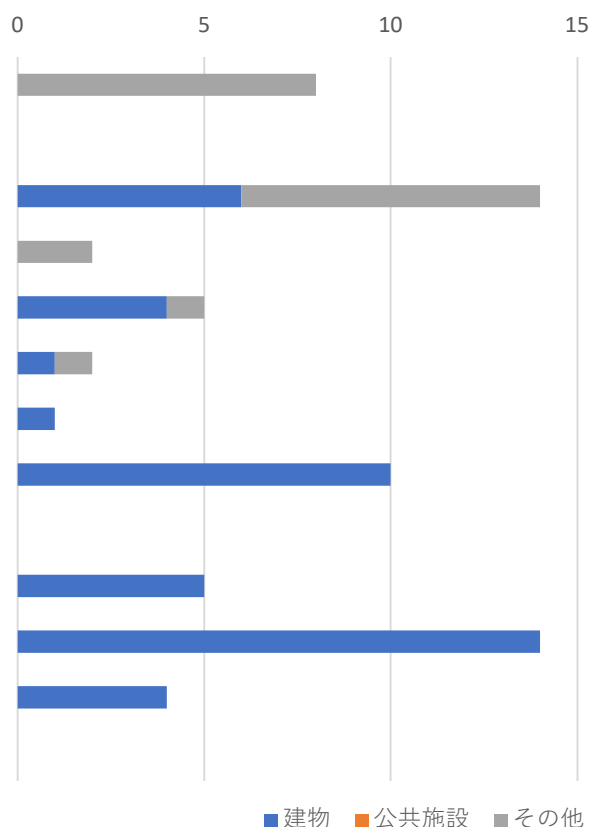
資産更新額の推計

年度	建物	公共施設	その他	合計	年平均
～2021	0	0	8	8	

2022～2026	6	0	8	14	3
2027～2031	0	0	2	2	0
2032～2036	4	0	1	5	1
2037～2041	1	0	1	2	0
2042～2046	1	0	0	1	0
2047～2051	10	0	0	10	2
2052～2056	0	0	0	0	0
2057～2061	5	0	0	5	1
2062～2066	14	0	0	14	3
2067～2071	4	0	0	4	1
2072～2076	0	0	0	0	0

2076年までの合計	45	0	20	65	
------------	----	---	----	----	--

将来の資産更新必要額



この他に地方債の返済、新設備の建設費が必要です。

固定資産台帳整備により将来の資産更新必要額の推計が可能となります。
安房郡市広域市町村圏事務組合が現在保有している全ての有形固定資産について、以下の前提でグラフを作成しています。

[資産の法定耐用年数終了時に現状と同規模で同機能のものを現在価格で更新する]

この推計によれば、2022年から2076年までの 55 年間に65億円の更新投資が必要となり、特に2022年から2026年までの間に資産更新が集中することが想定されます。

施設の維持補修などの延命化による更新時期の平準化や施設の用途・必要性の見直しを検討するなど計画的な施設の管理が今後重要な課題です。

用語解説

貸借対照表

◆ 固定資産

- ・事業用資産…………… 公共サービスに供されている資産でインフラ資産以外の資産
例：庁舎、学校、公民館、公営住宅、福祉施設など
- ・インフラ資産…………… 社会基盤となる資産
例：道路、橋、公園、上下水道施設など
- ・物品…………… 車両、物品、美術品
- ・無形固定資産…………… ソフトウェア
- ・投資及び出資金…………… 有価証券、出資金、出損金
- ・投資損失引当金…………… 保有株式の実質価格が低下した場合に計上
- ・長期延滞債権…………… 滞納繰越調定収入未済分
- ・長期貸付金…………… 自治法第 240 条第 1 項に規定する債権である貸付金（流動資産に区分されるもの以外）
- ・基金…………… 流動資産に区分される以外の基金（減債基金、その他の基金）

◆ 流動資産

- ・現金預金…………… 手許現金や普通預金など
- ・未収金…………… 税金や使用料などの未収金
- ・短期貸付金…………… 貸付金のうち、翌年度に償還期限が到来するもの
- ・基金…………… 財政調整基金、減債基金（特定の地方債との紐づけがないもの）
- ・棚卸資産…………… 売却目的保有資産（水道事業会計等における量水器等）
- ・徴収不能引当金…………… 未収金や貸付金等の金銭債権に対する将来の取立不能見込額（不納欠損額）を見積もったもの

◆ 固定負債

- ・地方債…………… 地方公共団体が発行した地方債のうち、償還予定が 1 年超のもの
- ・長期未払金…………… 自治法 214 条に規定する債務負担行為で確定債務とみなされるもの及びその他の確定債務のうち流動負債に区分されるもの以外のもの
- ・退職手当引当金…………… 職員が当該年度末で退職した場合に必要な退職手当額
- ・損失補償引当金…………… 履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体財政健全化法上、将来負担比率の算定に含めた将来負担額

◆ 流動負債

- ・1 年内償還予定地方債…………… 地方債のうち、1 年以内に償還予定のもの

- ・未払金……………基準日時点までに支払義務発生の原因が生じており、その金額が確定し、または合理的に見積もることができるもの
- ・未払費用……………一定の契約に従い、継続して役務の提供を受けている場合、基準日時点において既に提供された役務に対して未だその対価の支払を終えていないもの
- ・前受金……………基準日時点において、代金の納入は受けているが、これに対する義務の履行を行っていないもの
- ・前受収益……………一定の契約に従い、継続して役務の提供を行う場合、基準日時点において未だ提供していない役務に対し支払を受けたもの
- ・賞与等引当金……………基準日時点までの期間に対応する期末手当・勤勉手当及び福利厚生費
- ・預り金……………基準日時点において、第三者から寄託された資産に係る見返負債

行政コスト計算書

- ・経常費用……………業務費用（人件費＋物件費等＋その他の業務費用）＋移転費用（補助金、特別会計への移転費用など）
- ・人件費……………職員給与費や賞与等引当金繰入額、退職手当引当金繰入額など
- ・物件費等……………職員旅費、委託料、消耗品や備品購入費（資産に該当しないもの）、施設等の維持修繕にかかる経費や資産の減価償却費など
- ・移転費用……………住民への補助金や生活保護費などの社会保障費、特別会計への資金移動など
- ・その他の業務費用……………支払利息、徴収不能引当金繰入額、過年度分過誤納還付など
- ・経常収益……………収益の定義に該当するもののうち、毎会計年度、経常的に発生するもの
- ・臨時損失……………災害復旧事業費、資産除売却損などの臨時的な損失
- ・臨時利益……………資産売却益などの臨時的な利益

純資産変動計算書

- ・前年度純資産残高……………前年度末の純資産の額（前年度貸借対照表の純資産額と一致）
- ・純行政コスト……………行政活動に係る費用のうち、人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない行政サービスに係る費用（行政コスト計算書の「純行政コスト」と一致）
- ・財源……………税金等と国県等補助金の合計
- ・税金等……………地方税、地方交付税、地方譲与税など
- ・国県等補助金……………国庫支出金及び都道府県支出金など
- ・資産評価差額……………有価証券等の評価差額
- ・無償所管換等……………無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など

資金収支計算書

◆ 業務活動収支

- ・業務費用支出 …………… 人件費支出、物件費等支出、支払利息支出など
- ・移転費用支出 …………… 補助金等支出、社会保障給付支出、他会計への繰出支出など
- ・業務収入 …………… 業務支出の財源に充当した税金等収入、国県等補助金収入の他、
使用料及び手数料収入など
- ・臨時支出 …………… 災害復旧事業費支出などの臨時的な支出
- ・臨時収入 …………… 臨時的な収入

◆ 投資活動収支

- ・投資活動支出 …………… 公共施設等整備費支出、基金積立金支出、投資及び出資金支
出、貸付金支出など
- ・投資活動収入 …………… 投資活動支出の財源に充当した国県等補助金収入の他、基金取崩
収入、貸付金元金回収収入、資産売却収入など

◆ 財務活動収支

- ・財務活動支出 …………… 地方債償還支出など
- ・財務活動収入 …………… 地方債発行収入など